

# SSKO

Drug Addiction Rehabilitation Center

# DARC

# Grow up!!

栃木ダルク

ニュースレター 第68号(2008, 12, 5)

## 施設移転に伴うご協力をお願い

特定非営利活動法人 栃木DARC

理事長 栗坪千明

寒冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

さて、このたびはお願いがあって筆をとりました。2003年より5ステージプログラムの3ステージまでを担ってまいりました那須TCですが、今までの活動の中で近隣の団体などともネットワークを構築し、活動的には順調にしてきました。

開設当初からの何度か大家さんとの交渉を重ねた結果、双方の都合により、那須TCを私たち栃木ダルクが使い続けることが困難であるという結論に至り、残念なことに近く移転しなくてはならないことになりました。

栃木ダルクのプログラムは1~3ステージ（断薬）を行う那須TCと4~5ステージ（社会復帰）を行う宇都宮OPの両方が一体となって効果の上がるプログラムですので、那須TCをなくすわけにはいきません。なくしてしまうのは栃木ダルクの存在意義も問われる重要なこととなります。

そして、断薬を目的とした施設は自然環境の良いロケーションが求められます。

入寮者たちにプログラムを受けるにあたって影響が出ないようにするのが私たちがしなくてはならないことですので、移転については迅速かつ最善を尽くすことが要求されることも重々承知の上での決断です。

つきましては、本人を預けていただいている家族の方々のご理解を賜ることとともに、移転先（那須近辺が望ましい）の心当たりのある方が、このニュースレターを読んでくださっている皆様の中でおられましたら、ご一報いただければありがたく思います。

ならびに、その移転に関する費用の献金をお願いいたします。

心苦しい限りではありますが、よろしく願いいたします。

毎日新聞 2008年（平成20年）11月15日（土）掲載記事より

### 「最後は自分でなくなる」

力士やプロテニス選手、慶大生らが、大麻取締法違反容疑で相次いで逮捕された。県内でも大麻に絡む検挙者が増えている。背景には薬物が手軽に入手できる環境があるようだ。26歳から約9年間、断続的に大麻を吸い続けてきた県内在住の男性（36）が毎日新聞の取材に応じ、「大麻はその時だけの快樂しか得られず、その後必ず苦しみがやってくる。どんどん壊れ、最後は自分ではなくなってしまう」と、常用の恐ろしさを証言した。男性は現在、社会復帰に向け、更生プログラムを受けている。

### 拡大する大麻汚染

男性は99年、サーフィン旅行で訪れたハワイで初めて大麻を吸った。知り合った日本人女性が大麻を吸って楽しそうにする姿を見て「じゃあ、おれも」と使用した。男性は当初、女性の勧めを断っていたが、現地では「大麻は危険なドラッグじゃない」という誤った情報が「常識」のように語られていて、開放的なムードもあり、好奇心から手を出した。

男性は2回目の使用で快樂を知り、帰国までの約1カ月間、毎日のように使い続けた。とりこになった男性は、いったん帰国したが約10日後にハワイに戻った。朝起きて大麻を吸い、サーフィンをして夕方に宿に戻ると、寝るまでまた大麻を吸う生活を約2カ月間続けた。「サーフィンをするためではなく、大麻を吸うためにハワイに行った」。価値観も変わり「あくせく仕事するのはばからしい」と考えるようになった。

2回目のハワイ滞在時と、ハワイから帰国した後には、他の薬物にも手を出すようになり、男性の精神はついに異常をきたした。「金がすべて悪いんだ」などと思い込み、関西地方にある実家で車をぶつけて壊したり、全裸で屋根に上るなど支離滅裂な行動を繰り返した。しまいには家業をしていた実家から現金数百万円を盗んで、再びハワイに向かった。しかし、心身ともに異常な状態は続いていた。所持金すべてを窓からばらまいた。所持金がなくなったため、ボロボロの服を着て裸足のまま街を歩くなどホームレス同然の生活を送った。

見かねた現地の知り合いが男性の実家に連絡し、帰国の手続きを取ってくれた。帰国した後、男性は精神病院に入院。だが、約2カ月間入院した後も断続的に大麻を使い続けた。その間、大きな事故も起こした。33歳の時、原付きバイクで電柱に突っ込んだ。脳挫傷と粉碎骨折などで約半年間入院した。「地獄のような痛みだった」と振り返る。その後、精神科医から薬物依存症者のためのリハビリ施設「DARC」を紹介

された。

実家の近くだと大麻などを使用していたころを思い出してしまうため、男性は07年4月、栃木DARC（宇都宮市）に入所した。施設から抜け出したこともあったが、現在は落ち着きを取り戻し、社会復帰を目指している。

#### 「依存性ない」誤った情報が流布

県警組織犯罪対策課によると、県内で1～10月に大麻取締法違反容疑で検挙されたのは計10人。既に昨年1年間の検挙者7人を超えており、県内でも大麻汚染が広がっていることをうかがわせる。県警は10月、県内などの男6人を同法違反（所持）容疑で逮捕した。いずれも神奈川県内の男からインターネットを通じて購入したという。

大麻汚染が広がっている要因として、栃木DARCの粟坪千明理事長は、①依存性がないなどの誤った情報が流布している②インターネットなどを通じて安く手軽に入手できる③大麻の無許可所持や営利目的の栽培などは罰せられるが、医療目的にも使われるため、吸引そのものや種子の所持には罰則が科されない一点などを挙げる。

栃木DARCの入所者のうち、使用した主な薬物が大麻という入所者は06年度まで0人だったが、07年度は全体の13%を占めるまでになった。

粟坪さんは「大麻を使い続けると薬物依存症という病気になる。一回でも使用しないこと。もし使い始めてまだ依存が形成されていないなら、ただちにやめるべきだ」と訴えている。

#### 12月予定表

- 6日 DAKKS家族会参加
- 8日 足利市立第一中学校講演
- 14日 チャリティーコンサート
- 18日 TC研修会参加
- 21日 77'イソシヨン家族会とちぎ参加
- 24日 黒羽覚せい剤教育

新聞の取材を受けちゃいました。汗...（・・・）

依存症のテツキチ

先日、某大手新聞の県民版の取材を受けました。昨今大きな社会問題となった大麻問題ですが、大麻に問題のある僕が取材を受ける事になりました（汗）

取材前日までは「新聞の取材を受ける程回復したんだ」と意気揚々としていたのですが、いざ取材を受けてみて、記者の時系列のはっきりした質問に答えていくうちに、その時々感情が蘇ってきて誤魔化していたり言い訳していたりしていた中途半端で利己的な記憶が自分の中で整理されていき、具合が悪くなっていきました。

そして「社会復帰については？」の質問に対して「大麻を肯定して生きていたあの頃に戻ってしまうのではないかと思うとまだ怖いです」「だから慎重にやっていきたいです」と素直に言えました。大麻の快楽を肯定し使っていた頃が、辛く苦しみに満ちた時間だったと認識出来るようになったことは回復の証なのでしょうか。

取材を受けてみて良かったと思う事は、ダルクに繋がる前に僕が見ていた社会、世界そしてその価値観には絶対戻りたくないと強く思えた事でした。最後に写真を斜め後ろから撮って（代表の指示で少しうつむきかげんにという事に）（笑）、デジカメの液晶画面に映る自分の姿を見たとき、まざまざと現実を見せられた思いになりました。依存症に苦しみ社会から孤立した自分が写っているような気がして.....。ダルクで生活していると忘れさせられるもう1つの現実。

ダルクでは周り皆が同じ病気に苦しむ仲間にもまれていて安心してたんだと思いました。社会と直接触れ合う機会もあまり多くなく、施設の中とNAミーティングが僕の社会であり現実でしたが、新聞というメディアを通して自分の今の位置というか、社会性というものが少し見えました。でも取材を受けてなんだかバランスがとれて本当に良かったと思っています。

社会性という事ですが、一年数か月の施設生活の中で少しは社会の人達と交流する機会がありました。最初はたしかNAミーティングの時に皆で立ち寄る老舗な感じのたばこ屋のおっちゃんでした。「毎週来るけどなんの団体なの？」突然聞かれて、当時ビギナーだった僕は少々焦ってしまい答えに窮していると「どこからお見えなの？」に質問が切り替わり「那須のほうから来てます」と答えると「那須のほうだと〇〇会社の社員さん？」と会話は進み「そうです」と、とっさに返事してしまいました。薬物依存りハビリ施設と言えず、後になってこういう場合なんて言えばいいんだろうと考えたのを覚えてます。ちゃんと言うべきだとか、言わないほうがいいのか仲間からは賛否両論でしたが、その頃の僕は自分の事を薬物依存症とまだ認めることが出来ていなかったから仕方ないかな。

そして物怖じせず答えることができたのはプログラムの帰りに毎回寄るコンビニの

店長さんだったかな、「毎週来られますがどのような集まりなんですか？」と聞かれ「薬物依存症の施設で回復プログラムの1つとしてその体育館でスポーツしてるんです」と答えたら「そうですか！またよろしくお願いします（＾＾）」とすごく愛想よく、肯定された感じがして嬉しかったですね。平日の昼間に15,6人でいつまワイワイとアイスクリームなどを無邪気に行っていく僕たちに何か興味をそそいたのでしょね。なんでそういう事を聞かれるのはいつも俺なの？僕に社会性を感じるのかな？などと変な自己肯定間を持ちつつも（・・・；）しかしその後その店長から愛想笑いが出た事は記憶にありません（@@）それはそれで1つの現実なのでしょうね。

そんなこんなで、薬物依存症の自分と社会との距離感が曖昧なままウクレレフェスタというイベントをむかえました。僕たちはそこでカホンという楽器を演奏しました。演奏後仲間といると、演奏を聴いていただいたご夫婦の方が声をかけてくれました。「あの曲はなんていう曲ですか？とても感動して泣けてきました！」その時それほど多くは語りませんでしたが、僕も泣きそうになりました。なにか言葉にできない心の叫びがカホンを通して伝わった！依存症とかを超えて僕の存在そのものが肯定されたような気持ちになってこみ上げました。その方とは今も施設を通じて良い関係が進行中です（＾＾）

ありのままの自分。それを全部受け入れ生き続ける。応援してくれている皆に感謝し、社会に受け入れられ、自分の人生を広げていきたいと思えます。今はまだこじんまりしている僕だけだね（＾＾）／ そんなわたくしめですがなんと、那須でのスタッフ研修を経て宇都宮で就労プログラムに入る事になりました。そしてまずは散髪をしなきゃ！という事で就労活動初日に六ヶ月ぶりに床屋へ.... 休み.....。きっと普通なら散髪はあらかじめ履歴書を書くなり、求人情報を見るなり頭の切り替えが出来るのですが、そこは依存症の私、他の床屋、顔剃りもしたいから美容室は嫌だ（床屋は理容室）、若いアンちゃんがやっているとこは嫌だ、しかも今日中に切りたいなどと、わがままになり、どんどんてんばっていき自転車で宇都宮市内（ダルク周辺）をウロウロ。かなりの挙動不審（・・・；）少し落ち着いて考えれば、理容組合に入るとこはどこでも全部休みだから床屋を探してる僕は無駄足だっわかるのにな。でも次の日に前日の行動を振り返り結構落ち込みました。あまり笑えない就労活動初日の教訓を活かしてこれからの人生焦らずやって行こう！ですね（＾＾）／

追伸 翌日念願の散髪に行き「面接に行くので」と美容室のおばちゃんに切ってもらいました。「今は何をされているの？」つい堂々と「ニートです！」と答えちゃいました。  
ちゃんちゃん♪



11月献金を下さった方々

カトリック那須教会様、早川久子様、半田久美様  
福田コト様、水井清次様

匿名3名様

11月献品を下された方々

森谷和義様、古口和代様、佐藤忠雄様

匿名3名様

編集

NPO 栃木DARC

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com>

Eメール: [nesm@t-darc.com](mailto:nesm@t-darc.com)

発行所

郵便番号一五七〇〇七三 東京都世田谷区砧六一二六一二二  
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円